

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月28日

【評価実施概要】

事業所番号	4270401187		
法人名	有限会社 ポラリス		
事業所名	グループホーム イーハトープ		
所在地	〒854-0121 長崎県諫早市有喜町151-10 (電 話) 0957-28-6330		
評価機関名	特定非営利法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島町二丁目7217島原商工会議所1F		
訪問調査日	平成20年 7月 16日	評価確定日	平成20年 9月3日

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 8 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての 階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,900 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 300 円 夕食 400 円 または1日当たり 円	昼食 おやつ	300 円 0 円

(4) 利用者の概要(平成20年4月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低 66 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤原医院・デンタルクリニック フジワラ・西諫早病院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

潮の香りが心地よい港町の商店街通りにある当ホームは、「ぬくもり・やさしさ・一人ひとりを大切に」という運営理念のもと、地域の方々との交流を大切に家庭的な環境の中で、利用者の一人ひとりの思いを尊重してその人らしく過ごせるよう受容に努められている。ホームの玄関は、ベンチに腰掛けてひと時を楽しめるように配慮されており、高血圧体質や心臓病の利用者に入浴での負担が少なく温まるミストシャワーの入浴機器を取り付けられている。また、地域密着多機能型の「我が家」で支え合いの介護を追究して、代表者及び職員は、更なる協力体制の構築に向けて話し合いを重ねると共に、ホームの目標を掲げ課題の検討に向けて特別に講師を招き、独自の研修に取り組みされており、研修後の報告・周知を徹底することにより、存続性の高い、納得のいく介護・うそをつかない介護を実践されている。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価について、評価後必要性を十分理解して早急に手掛けられ、今後の取り組みに反映されている。2階のホーム玄関の壁に、来訪者に向けて個人情報保護に関する書式を掲示されており、災害対策については、運営推進会議で地域の理解と協力を得られている。又、鍵をかけないケアについて、夜間は家族の同意を得て施錠をされ、日中は見守り体制の連携に努められている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、若い職員の意見を聞き、まとめて検討の上、担当者が作成されている。より良い介護を常に追及され、評価を活かして実践に取り組まれている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に一回を目途に、地域住民の代表・市職員・家族の代表の出席を依頼され、地域の子供達や住民の交流についての取り組みや災害対策についての議題を設け、双方向的な話し合いにより地域の気軽な訪問と協力を働きかけ馴染みの関係の構築を図られている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホーム便りは3ヶ月を目途に発行され、家族へ利用料請求書に同封して一人ひとりの利用者の状況報告(遠方の家族へ安心の促しとなるよう)等取り組まれている。家族の訪問時は、報告や意見の聞き取りに努め金銭出納帳の確認・捺印を得られている。外部者への相談窓口等の明記内容の掲示及び意見箱も設置され、他に、契約書の内容について、変更内容を文書にて利用者の家族に発送の上、家族の理解と同意を得られ、遠方の家族にも怠る事無く通信により意見の反映に努められている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 商店街の方々との自然なお付き合いの中で、必要不可欠なホームの存在感と地域の相談役として開放的なホームになるように努められている。ちびっこボランティアの受け入れや地域の行事への参加、そして自治会に加入し行事にも参加されている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着多機能型のグループホームとして、住み慣れた地域で一人ひとりの可能性を発揮して自分らしい生活ができるように、地域との関わりを大切に理想郷の探求とホームの理念に沿って支援に努められている。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、大きな文字で解かり易く居間に掲示され、地域でその人らしく暮らし続ける日々を寄り添い支えて、理念の共有と実践に取り組まれている。	○	地域や家族へホームの理念の浸透を更に図る為に、ホーム便りに理念の明示をされ、職員の更なる意識付けの向上を期待して唱和の取り組み等に期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	商店街の方々との自然なお付き合いの中で、必要不可欠なホームの存在感と地域の相談役として、開放的なホームになるように努められている。ちびっ子ボランティアの受け入れや地域の行事への参加、そして自治会に加入し、行事にも参加されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価について、評価後必要性を十分理解して早急に手掛けられ、今後の取り組みに反映されている。今回の自己評価は、若い職員の意見をまとめて検討の上、担当者が作成されている。より良い介護を常に追及され、外部評価の折も、資料及び情報の提供は積極的で、評価を活かし実践に取り組まれている。		
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一回を目途に、地域住民の代表・市職員・家族の代表の出席により、地域の子供達や住民との交流についての取り組みや災害対策についての議題を設け、会議において地域の方の気軽な訪問と協力を働きかけ、馴染みの関係の構築を図られている。		

グループホーム イーハートブ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と常に、連絡を取り事例解決に向けて早急に取り組まれている。成年後見人制度の利用にも尽力されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りは3ヶ月を目途に発行され、家族へ利用料請求書に同封して一人ひとりの利用者の状況報告(遠方の家族へ安心の促しとなるよう)等取り組まれている。家族の訪問時、報告や意見の聞き取りに努め、金銭出納帳の確認・捺印を得られている。また、行事の折は、必ず家族に連絡をして参加を呼びかけ、交流に努められている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者への相談窓口等の明記内容の掲示及び意見箱も設置され、他に、契約書の内容について、変更内容を文書にて利用者の家族に発送の上、家族の理解と同意を得られ、遠方の家族にも怠る事無く通信により、意見の反映に努められている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	多機能型の利点により、施設内職員の栄養士・看護師の協力の下、利用者の健康状態及び栄養面においても職員の連携体制が構築され、元気良く笑顔で利用者に関わりを持たれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会には積極的な参加を促し、研修後の報告書には管理者の所見の項目に職員への励ましの言葉があり、専門的な研修の大切さを痛感されている。また、ホーム独自の研修会を設け、講師を招いて研鑽に努められている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等の定例会の内容は、職員にすべて伝達講習により内容の把握に努め、サービスの質の向上に取り組まれている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院より紹介の利用者の他、地元の方の利用者が殆どで、利用前に顔なじみの関係を作り、サービスを開始する時は、病室に訪問して職員に少しずつ馴染んで貰えるように努められている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の思いや感情に寄り添い、自分を認めてほしいという思いの受容に努め、うそをつかない介護の取り組みの中で共に支えあう関係支援に努められている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いに気付き、食欲のない利用者に好みの食事を用意されたり、通院の際に自宅に立ち寄られ、訪問調査時にも、利用者の意向の把握に努められている状況を見聞きする事が出来、利用者本位の介護に取り組まれている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎週木曜日にフロア会議を行い、利用者3名に職員2名の共有担当制の取り組みで、介護支援専門員の提示に沿って話し合い(利用者の状況に応じ主治医・家族等)の意見を反映して、利用者本位の介護計画を作成されている。介護計画は、家族に直接説明や発送・返信の手順を踏み、同意・捺印を得られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは6ヶ月を目途に総合的に見直されているが、利用者の心身の変化が見られた折、フロア会議で話し合い、必要に応じ随時見直しの改善に努められている。		

グループホーム イーハートープ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じ、通院の帰りに自宅に立ち寄ったり、柔軟な対応を心掛けて取り組まれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託契約の主治医の往診(24時間対応)や定期受診時など通院の支援に努められている。受診内容は、受診ノートに記載して家族への報告も取り組まれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	嘱託契約の主治医の往診(24時間対応)や指導を得て、利用者・家族の意向に沿って話し合い、慎重に取り組まれている。課題である終末の支援がどこまで対応出来るのか、ホーム独自に講師を招いて「グループホームに於ける終末期介護の実践について」の研修会を公民館で実施されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の傍で穏やかに語りかけ、食後も和やかに会話を楽しまれている。2階部分のホーム玄関の壁に、来訪者に向けて個人情報保護に関する書式を掲示されている。ホーム便りに利用者の顔写真の掲載については、家族の同意を頂くことで理解を得られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションの計画表は掲示されているが、利用者の興味のある取り組みをさり気なく促し、歌にあわせて手拍子をしたり、地元よりの利用者は、通院の帰りに自宅に立ち寄り希望に沿って支援されている。		

グループホーム イーハートブ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	訪問日、利用者はおやつ作りを楽しんでいた。一日の献立をボードに記載して、食事が楽しみな時間となるよう職員も共に食事をされ、利用者の調理方法についての質問に答えたり、利用者の好みの食事に变えてあげたり、食事に関する嗜好調査をする事で意向に沿う支援をされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、職員の都合で決める事無く、利用者の希望を聞いて気持ちよく過ごして頂いている。一日おきに入浴されるが、希望があれば毎日でも入浴可能で、身体の清潔を保持して柔軟な対応をされている。又、高血圧体質や心臓病の利用者には、入浴での負担が少なく温まるミストシャワーの入浴機器を取り付けられている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	年に1回、日帰り旅行を予定されており、家族にも参加して頂いている。職員は、事前に利用者の食事チェックを行い楽しい旅行になるように気晴らしの支援をされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	商店街が近く、材料の不足品の買い物に出かけたり、利用者一人ひとりの希望に応じ散策や気軽な外出の支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	評価後の鍵をかけないケアの取り組みとして、夜間は、勤務交代の折、事故を予防する為に家族の同意を得て施錠をされ、日中は、職員の見守り及び階下の職員の自然な見守り体制の連携で、利用者の様子を常に把握して支援に努められている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、夜間を想定して年2回(消防署立会い)独自にタイムを計測して実施され、代表者自らも地元の消防団員として活動されている。運営推進会議で、緊急時の地域のサポート体制の協力を自治会長に依頼され、災害に備えた備蓄は、ボストンケースで持ち出せるように、水・食料の確保にも努められている。		

グループホーム イーハートブ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	翌週から検食及び検便の実施予定である。利用者の水分・食事の摂取量の記録により状況把握の上、嗜好調査を取り組まれている。特定疾病の利用者には、水分摂取の必要性和加減を重視して(氷・ゼリー等で対応)、併設施設の栄養士との連携に努め、利用者一人ひとりに応じた支援をされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、テレビ・ソファ・テーブル・畳コーナーを家庭的に配置され、利用者と職員が関わりをもてるように配慮されている。廊下は照明で明るさを保ち、車椅子でも対応可能な洗面台や鏡、そして手すりの取り付けや行事の際の写真の掲示と利用者の手作りの品を飾り、落ち着いた雰囲気を整えられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の目線に合わせて表札を掲げ、利用者の生活の中で何が必要か相談をした上で見やすい時計をプレゼントする等、馴染みの物や家族の写真の飾り付けの他に、テレビ・箆笥・ベッド(寝具は無料貸与)の配置を工夫して、利用者一人ひとりの居室に於ける居心地のよさに配慮されている。		